大正５年５月５日木藤精一郎創立

やまゆき会会報

令和元年　７月号

例　会　報　告

やまゆき会　創立 103 周年記念 六甲集中登山&懇親会
5 月 5 日創立記念日 木藤精一郎記念碑前(六甲・高座ノ滝)に 3 コースから参集

5 月 5 日(日・祝) 晴れ 担当:やまゆき会会員一同 参加者 55 名

令和元年の最初の日曜日、やまゆき会創立記念日をハイカーで賑わうロックガーデンの登山口である高座ノ滝前で祝った。

懇親会は 14 時前に開会、原田会長の冒頭挨拶に続いて、本日の 3 コースの例会担当者から、山行報告が行われた。各山行では、今年も傷病者発生を想定した緊急時の対応を学習した。木藤精一郎記念「山行」碑文は、「行きかう山行者の活動と安全を見守り願う」と刻まれており、この安全登山への思いを再確認するため創立記念日の各山行において緊急時の対応訓練を実施するものである。

原田会長の音頭で乾杯の後、懇親会が始まり、新旧のメンバーが入り混じって、懇親を深めた。最後にお堂の前で集合写真を撮り、皆でゴミ回収の後、15 時過ぎに解散した。

創立記念日六甲集中登山：荒地山　中級 C

5 月 5 日(日・祝) 晴れ 担当:河田嘉直 参加者 23 名

本日は恒例の六甲集中登山日。9 時に阪急芦屋川駅に 23 名集合する。天気も良く駅前は登山の人々で溢れていた。場所を移動して近くの公園で点呼及び本日のコースを説明し、学習例会で受けた準備体操で身体をほぐし 2 班に別れて出発する。歩き出してすぐに額から汗が吹き出してくる。暫く歩くと荒地山登山口に入り芦屋川右岸新道ルートを進む。川沿いの緩やかな山道でゆっくりと歩き、途中陽明水で水分補給をして再び歩き出す。20 分程で本日一番の難関の岩場、道畦谷北尾根に差し掛かり、ストック等しまい両手が使えるように指示をする。足場を充分に確保し両手を使いゆっくり登り、荒地山 8 合目付近で大阪湾が一望できる絶景スポットで休憩する。(心のやすらぎを感じる幸せな一時であった)。再び山頂を目指して登り、本日の目標 荒地山山頂(549m)に到達する。昼食前に緊急時の対応の講習を予定していたが、山頂は場所も狭く他のサークルにも迷惑を掛けるため、他の場所に変更し、少し時間が早

いがお昼ご飯とする。食後集合写真を撮り下山を開始する。高座谷下山ルートの途中で一般にうぐいす広場(うぐいすの鳴き声が良く聴ける場所らしい)で、本日の第二の目標である、救助要請の講習を松川さんに願いしまた、西山さんの協力も得て無事に終了しました。再び高座ノ滝を目指して下山開始、目標通り集合時刻 30 分前に無事全員下山が出来ました。皆さんのご協力ありがとうございます。

コースタイム

阪急芦屋川駅(9:00)～公園(9:05-9:20)～鷹尾城山登山口(9:32)～陽明水(10:00-10:05)～道畦谷北尾根登山口(10:10-10:15)～8 合目付近テラス(10:40-10:50)～荒地山山頂(11:15-11:35)～うぐいす広場(12:00-12:25)～高座ノ滝(13:30)

創立記念日六甲集中登山：魚屋道～高座ノ滝　初級 C

5月5日(日・祝)　晴れ　担当:越後富美子　参加者 11 名

甲南山手駅で参加者の確認をして出発。稲荷神社横の公園で準備体操をして、車に注意しながら舗装道を登って行く。魚屋道の入口で衣服調整をして少し荒れた道を蛙岩へと向かう。木々の緑が鮮やかで、木陰を作ってくれているので暑いながらも気持ちの良い風が時折吹くが、足元が悪いので気が抜けない。蛙岩で 15 分の休憩をし、どこから見れば「蛙？」と岩を回る。ここからは歩きやすい道になり周囲を見渡す余裕も出てくる。春の花も終わった様で緑以外の色がないので、

眼には少し寂しい。風吹岩に到着するが、子供の日であるためか親子連れが多く昼食場所の横池へと進んで行く。昼食後、救急処置・救助要請の講習を行う。北川隆史さんから提案があり、急に倒れるという事態を作りました。参加者には伝えていなかったのでびっくりされた方もいましたが、緊張感を持って講習内容を理解していただけたのではないでしょうか。オタマジャクシがいっぱいの横池を後にして風吹岩へと戻り、岩に登りイノシシに遭遇する。お昼に利用する人が多いので、遭遇する事が時々あります。ここから高座谷に降りて行き、水のな

い川そばを高座ノ滝へと進む。到着すると我々が最後で皆さんが出迎えて下さいました。

コースタイム

JR 神戸線甲南山手駅(9:35)～稲荷神社(9:45-9:55)～蛙岩(11:00-11:15)～風吹岩(11:45)～横池(11:55-12:40)～風吹岩(12:50-13:00)～高座谷(13:05)～高座ノ滝(13:45)

創立記念日六甲集中登山：城山（261m）　入門B

5 月 5 日(日・祝)　快晴　担当:中川輝夫　参加者 19 名

五月晴れの清々しい快晴、新緑の下、阪急芦屋川駅に入門Bの参加メンバー19 人の方々が集合。会長以下、ベテラン、新人を交えての山行となった。芦屋川駅前は祝日で混雑していたので、山芦屋公園で、点呼、ストレッチ、コースの説明を実施した(昼食後、安全登山の学習を実施する旨説明)。城山への分岐から登頂開始。ここからは新緑の木々の木陰の登山道で、和気あいあいゆっくりと登り、30 分ほどで見晴らし台に到着、10 分休憩。大阪平野、大阪湾と、生駒山、二上山、葛城山、金剛山、奈良の山々を一望に堪能。残りの城山頂上へはジグザクのかなり急な登山道だったが、全員予定時刻にて頂上到着。頂上には、大きなヤマモモの木が生い茂り、その木陰で昼食。ここからも、南側への眺望、西側にはロックガーデン方面への山並みを楽しんだ。昼食後、学習例会(4 月 28 日実施)の資料をもとに安全登山学習を実施した。下山を開始、30 分ほどで高座ノ滝への分岐に到着。その後、創立記念日集中登山集合地の高座ノ滝へゆっくりと進み午後 1 時 30 分、3 グループ中で一番早い到着となった。

なお、鷹尾山のピークは昼食をした場所より、少し北側との情報あり、確認のため 5 月 12 日(日)に、三角点探しに調査したが、見つかりませんでした。

コースタイム

阪急芦屋川駅(10:30)～山芦屋公園(10:50)～城山への分岐(11:00)～見晴らし台(11:30)～城山・昼食・安全登山学習(11:45-12:30)～高座ノ滝への分岐(13:00)～高座ノ滝(13:30)

野坂山地：　赤坂山・明王ノ禿　中級C

5 月 12 日（日） 晴れ 担当：菅生佳余子 参加者 12 名

田植えが始まるのだろうか、水を湛えた水田・一枚一枚に新緑の稜線が映っている。近江盆地特有の山に囲まれた田園風景を眺めるうち、マキノ高原さらさの湯バス停についた。芝生が広がる高原サイトを通り、赤坂山登山口に向かう。出発準備を整え、学習テーマとした「歩行のペース配分」はコースを 5 つに分けて説明し、オーダーを決めて出発する。

武奈ノ木平を過ぎ、沢の流れに添いながら堰堤の脇を通過するとイワカガミが現れ始め、ブナの森では「イワカガミの大群生！」艶やかな葉の上に、薄紅色から濃紅色と、左右の斜面全体を覆うように微妙に色合いを変化させるので、見惚れて前に進めない。植生が変わり、急登に咲く「オオバキスミレ」に靴先が当たらない様に気をつけながら、鉄塔広場に着き休息する。差し入れの「リンゴ」を噛むと、パシッ！と音がして美味しさが口いっぱいに広がった。

三ヶ国語で道標を示された粟柄越を越え、赤坂山に到着し、強風を避けて岩陰で昼食を取る。野坂山地の山並みを見遣ると日本海が霞んで見え、異様な姿でそびえる「明応の禿」には、一瞬気持ちが引き締まった。後半は慎重を期すのでオーダーを再編成する。鞍部を越えると「この先ガケ有り！」と朽ちた立て札があり、打ち込まれた数十本の鉄杭に鎖が張られている。バリエーションルートは、鎖が無く転落すると怪我では済まないので、希望者だけで 10m程進んだ所で、足に絡むイバラと戦いながら一般ルートに戻る。「明応の禿」プレート設置場所で、会旗を高く掲げて集合写真を撮り、三国山分岐を経て黒河峠で一息入れた。

黒河林道は大半が陥没しており、川沿いに残る幅 20 ㎝から 30 ㎝の「林道？」は、高齢者用の平均台を歩いているようだった。平均台の次に続く約 3 ㎞のコンクリート道は、道路西側の急斜面を下り一般道に出た。バス発車時刻に間があるので、三々五々でバス停に着く。

脚力が混合するメンバーなので、タイムを意識せずに歩いたが、5 つに分けたコースは、参考にした『昭文社刊・山と高原地図』のコースタイムと、ほぼ変わらなかった。歩行ペースを守れば「何度も休息する必要なく」疲れずに完歩出来る。ご協力に感謝し、クーリングダウン後に解散した。

コースタイム

赤坂山登山口（9:38-10:00）～武奈ノ木平（10:52-11:01）～鉄塔広場（11:56-12:05）～赤坂山頂上（12:23-12:50）～明王ノ禿（13:23-13:29）～三国山分岐（13:56）～黒河峠（14:53-14:59）～林道終点（15:36）～白谷長寿苑バス停（16:18）

高見山地：室生赤目青山国定公園　赤目峡谷～長坂山　初級Ｃ

5 月 19 日（日） 晴れ 担当：岸本眞理 参加者 23 名

紅葉の景勝地「赤目四十八滝」に 2016 年「長坂山トレッキングコース」が出来た。展望は望めないが、良く整備された樹林帯と腐葉土の道は、いつ歩いても心が和む。

今日は、超大型連休後の影響か、観光客がかなり少ない。バス停付近で簡単なストレッチをし、コース説明、学習テーマ「歩行マナー」の説明後、人数が多いので二班編成にして出発。先ず、渓谷入口のサンショウウオセンターで、サンショウウオ見学の後に滝道をのんびりと歩き始める。連日の晴天で水量が少なく、迫力に欠けるが、それが幸いして千手滝では滝近くまで水が引き、滝をバックに集合写真が撮れた。その先も、案内板に従って滝道を進んで行くが、岩肌にイワタバコが所狭しと芽を吹いている。これだけの群落は滅多にないので開花に想いをはせ、ゆったりとした気分で歩くうちに百畳岩に到着。ここからは登山道になるので、水分補給と差し入れの菓子やトマトをいただき長めの休憩にした。

長坂山入山口に入ると、いきなり急な上り階段だが、傍らにイワカガミの群生。花が残っていないか探すうちに、最高地点でコース一番の展望地でもある里見峠に到着。谷から吹き上げる風が爽やかで汗をかいた肌に心地良い。ここで展望を楽しみながらの昼食や差し入れの鶯餅で元気を回復し、林道まで一気に下った。そこから 2 分ほど舗装道を歩き、改めて三角点のある長坂山の山道に入る。ダラダラと登りが続き景観もないが、しっかり整備された樹林帯をくぐり抜けて来る風や腐葉土の登山道は足に優しく、最後の登りを頑張っていると、ほどなく三角点に到着。ここでも集合写真を撮り、後は下山口まで休憩なしに歩いた。解散前、二つ目の学習テーマ「個人装備」の点検を実施。ヘッドランプは持参していても予備電池持参者が少なかったので、例会時に、ヘッドランプを持っていても電池切れで予備電池がなく困った実例を挙げて携帯の必要性を解説した。

気温が高く蒸し暑い中、安全登山ができたのも皆様のご協力のお蔭と、感謝いたします。

コースタイム

近鉄大阪線赤目口駅（09：25）＝三重交通バス赤目滝口バス停（09：40-09：55）～渓谷入口（日本サンショウウオセンター）（10：00-10：10）～千手滝（10：26-10：34）～百畳岩(11:10-11:19)～長坂山入山口（11:21)～里見峠・610m 昼食(11:53-12:27)～林道・長坂山ルート分岐(12:46)～長坂山⌕ 584.7m(13:27-13:32)～長坂山下山口(14:05-14:15)～林道・解散（14:20）

京都北山：　鍋谷山(859m)～伏状台杉保護区　初級C

5 月 22 日(水)　晴　担当:石田幸弘　参加者 9 名

・杉は真直ぐに1本延びる「表杉」が一般的ですが、「裏杉」というのがある。
裏杉は雪により地面に匍匐した枝からも更新がおこなわれ「伏状更新」と言われる。
日本海側の多雪環境に適応して育成する。鎌倉・南北朝時代には御料林を中心に林業技術が発達して1本の木から多数の材が取れるように台杉仕立てが盛んに行われた。
その後品種改良により表杉が多用化され、明治に入って御料地の解体で民間に払下げ後大きくなりすぎた杉は商品価値が下がり放置されてきた。
この貴重な伏状台杉群は、平成 11 年京都府の天然記念物に指定された。

・片波川地区の伏状台杉群は京都府の保護区に指定され、その管理を委託されている「京北自然観察インストラクター連絡会」から入山許可を貰って例会を実施した。

・昨年秋の台風で京都北山の杉も大被害を受けた。林道や山道は杉の倒木で歩けなくなった所が多い。広河原行のバスから眺める山はかなり片付けられたが無残な姿をしている。

・下の町バス停から南に向かって林道を延々と歩き鍋谷山の下に着いた。急登のヤブコギは敬遠者が多く、有志のみ。
写真は頂上に1本残る伏状台杉です。

・鍋谷山の尾根を取巻く林道を周回して保護区に入った。あちこちに点在する台杉を眺めながらの昼食。案内版に書いてある伏状台杉などの古木は 40 本を超え、杉には名前が付けてあるが表示札が無いので地図と見比べて同定する。その内名前は何でも良くなってくる。一番大きい平安杉の前で集合写真を撮る。

・尾根の南端から片波川東谷の林道へ下りる道もあるが、鍋谷峠への道が大崩れのため敬遠引き返した。帰路は鍋谷山～井ノ口山を迂回する林道を進み、井ノ口山へ寄り道した。
この山域も伏状台杉は多く残っていて、台杉の山と言えばこちらの方が一般的で立入禁止にはなっていない。林道脇から取付き、三角点を経由し、井ノ口山ピークから南に尾根を下った。
迂回林道の合流点にゲートがあり、東に向かって林道を下り井ノ口橋に向かった。

・時間が少しあるので、鍋谷峠への谷入口で蕨取りをして時間稼ぎ。
地元の人の話しでは最近この近くでもヘリによる救出事故があったと言う。

・あちこちで杉の見すぎでしょうか！　林道歩きが長くお疲れ様でした。
北山のバスは自由乗降区間でメロディを流しながらのどかに走り、帰路につきました。

コースタイム

京都バス出町柳駅バス停(07:50)＝下の町バス停(09:50-10:05)～林道分岐(11:00)～鍋谷山

の下(11:20)～ゲート・南へ(11:45-11:50)～保護区・昼食(12:10-12:40)～平安杉(13:00)～留杉(13:25)～林道(13:53)～井ノ口山取付き(15:10)～井ノ口山(15:45-15:50)～南尾根～林道・ゲート(16:30-16:35)～井ノ口橋・製材所(17:00)～鍋谷(17:05-17:15)～京都バス大悲山口バス停・解散(17:35)

奈良　矢田丘陵：松尾山・矢田山　初級 B

5 月 25 日（土） 晴れ 担当：越後富美子 参加者 18 名

5 月にしては異常気象になり、今日はニュースにもなるぐらいの最高気温を記録しそうな予想。暑すぎて外出をためらって参加人数は少ないかもと、集合駅で待ちました。暑いねと言いながら準備体操をすべく、法隆寺まで歩く。準備体操を終えて出発にあたり、渇きを感じる前に水分の補給を十分にとるように注意を促して、登山口まで日陰を選んで歩き出しました。

登山道は思いのほか樹木の葉で日陰があり、時折吹く風も夏の風とは異なり気持ちが良い。水分補給の小休止を取りながら、松尾寺に到着。参拝する方もおられ、一休みをする。NHK のアンテナの囲みフェンスの傍にある松尾山三角点に向かうが、多人数がとどまる広さが無いので確認しながら通過しました。国見展望台に到着し、ここで昼食を取りました。霞んだようで展望はあまり良くなく、矢田山をめざしました。矢田山のベンチで前に広がる大和平野を眺めながら休憩を取りました。ここからは下りになり榁の木峠を越えて萩の台駅へと向かいました。心配していた暑さも汗が流れるという程ではなく無事に解散できました。

コースタイム

JR 大和路線法隆寺駅（9：15）～法隆寺南大門（9：40-9：50）～天満池（10：05）～松尾山登山口（10:15)～松尾寺(10:55-11：10)～松尾山(11:30)～国見展望台(11：45-12：15)～矢田山(13:00)～まほろば展望休憩所(13:05-13：20)～榁の木峠（13：35）～近鉄生駒線萩の台駅（14:50）

春季公開ハイク　丹波山地：大岩ヶ岳　初級C

5 月 26 日（日） 晴 担当：松川元信 参加者 31 名

JR道場駅前に集合する。当日の天気予報の気温は 30℃を越える真夏日でした。

参加者の体調に配慮して水分補給休息を多めにとるように進行をしたいと思いました。公開ハイク参加者の事前の申し込みが無いため心配していましたが、4 名の参加が有りました。原田会長の挨拶、点呼、一般参加者の紹介、コース案内、準備体操後に出発する。神戸市の千刈貯水場で小休止をとりました。千刈ダムの手前の橋を渡り、登山を開始する。千刈湖を垣間見ながらダム湖周遊道の分岐を、大岩ヶ岳の方向に進みました。山頂が狭いため手前の比較的広い場所で昼食をとりました。岩場をはい上がった所が山頂でした。山頂からは羽束山や大船山が展望できました。記念撮影を終えて南側の尾根筋を下りました。谷に下りると最初の分岐が有り、南東尾根に向かう「東山橋」の小さな標識を見落として直進しました。南西尾根の樹林帯を進み午前中に登ってきた千刈湖の周遊ルートに出合いました。ここから千刈ダムに戻り千刈貯水場で休息後にJR道場駅で解散しました。

　コースタイム

JR道場駅（9:30-9:50）～千刈ダム（10:13-10:25）～昼食(11:30-12:00)～大岩ヶ岳山頂（12:40-12:55)～千刈ダム湖周遊道出合（14:00-14:05)～千刈ダム(14:25-14:35)～JR道場駅(15:05-15:15)